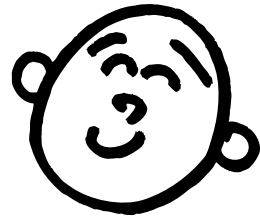




たかやんの市議会報告



新座市議会議員 たかむらともや(文教経済委員)
<http://www.takayan-world.com/cheeringparty/>

2004年12月発行

③ 師走

6時、ランニングへ…。一日のスタートはいつも通りだ。外はまだ暗い。12月議会がスタートした。8時25分に市役所に着くと一番乗りだった。地下の駐車場はガラガラだったけど、自転車だから関係なし。京都議定書にちよっぴり協力している気分になる。

9時からは写真撮影だった。30人の議員が揃って集合写真を撮った。9時半からは議会。10時過ぎには終わってしまったのだが、それから全員協議会があった。そこで一番問題になったのが保谷朝霞線のこと。財政がこれだけ苦しいというのに、新しい道路を作ろうというのだからどうかしている。市民のみなさんにどう説明しろというのだ。予算が通ってしまった東久留米志木線だって、できるものなら凍結して欲しいというのが僕の考えだ。市は50億円というお金を軽く見すぎている。お金を使うことに麻痺しているのだ。悪代官が貧しい農民から年貢を巻き上げている構図はいただけない。

③ 市民の声

昨日議会で話題になった保谷朝霞線の話をしたら、色々な人から反響があった。「もういい加減にしてください。」「道路を作ってもいいことはないです。」「またそれで借金をして、いったい誰が返すんですか?」「それで今度は税金が上がっていくじゃあないの?」「保証金もらって喜んでいる人は一握りですよ。」「泣く泣く越していくんです。」「地域社会が分断されてしまいますよ。」「本当に市長にも議会にもがっかりです。」「

学校の常識は社会の非常識と同じように、議会の常識も社会の非常識なのかも知れない。普通の会社は借金があったら、大きな買い物はしないしできないはずだ。返すあてがないのに借り続ける神経は普通ではない。新座市民も馬鹿じゃあないから、この道路に賛成した議員は次の選挙で落ちることになるかも知れない。少なくともそれくらいの危機感が欲しい。今までのツケがきているのだ。市長は勿論、僕達議員の本当の能力が今試されているのだと思う。

③ バランスシート

3時から市役所の5階で「バランスシートの読み方」の研修会があった。新座市の財政状況をバランスシートで読み取るというのだ。バランスシートの特性を生かして、未来のバランスシートを作成していこうという内容だった。講師の松本先生の話は分かりやすく、そして現実的で、僕らは2時間吸い込まれるように話を聴いていた。そして新座市の財政状態が極めて危険なことにあるということに強いショックを受けたのである。この財政危機を乗り越えるにはいかに収入を増やし、いかに支出を抑えるかということに尽きるのだ。能天気な道路を作っている場合ではないのだ。今、道路を作っていくって誰が喜ぶというのだ。50億ものお金が道路に消えていくことを喜ぶ市民はほとんどいないだろう。車が増え、危険が増え、排気ガスが増え、夏の気温が上がる原因になるのだから。そして市の財政がさらに苦しくなり、市民サービスが結局は低下していくのだから…。市民が望んでいるのは行き届いたサービスだ。本当の市民サービスを確実に少しずついいから向上させていくしかないのだと僕は思う。

③ 言葉

教育実習に行った函館中部高校の教頭先生から言われた言葉は「君達の授業は確かにひどいものだった。だけど、君たちには僕達にはないものがある。それは言葉だ。生徒と共通の言葉を君たちは持っている。我々教師が失ってしまった大切なものを君たちは持っている。是非それを失わないで欲しい。その言葉をどうか持ち続けてください。」というものだった。僕は教頭先生のその言葉だけを頼りに子ども達と一緒に歩いてきた。だから50歳になった今でもその言葉を僕は持ち続けていると、自分では思っている。子ども達との共通の言葉は決して上から言う言葉ではない。命令ではない。指示でもない。相手をコントロールしようという言葉ではない。自分の気持ちを相手に伝える言葉なのである。そして相手の気持ちを自分が知る為の言葉なのである。

市議会議員として今の僕ができることはほとんど無いだろう。一般質問でどれだけまともなことを言っても、結果は最初から決まっているのかも知れない。だけど僕はこれだけは失うまいと思っている。それは一市民としての言葉だ。新座を愛する一市民としての感性を僕は持ち続けたい。そう思っている。議会では非常識なことでも、市民の感覚からすると当たり前のこともある。僕は市議会議員をあと何年続けられるか分からないけれど、この「言葉」だけは持ち続けなくては行けないと思っている。そうあの教頭先生の言葉のように…。

一生懸命 ミニコラム 息子

会派の控え室に初めて長男の亮が顔を出した。僕が忘れた携帯電話を届けてくれたのだ。亮は小さい頃から僕が仕事をしているのを見て育った。五中時代はよく家を脱走して、学校に遊びに来たし、六中時代は自分も同じ学校に通っていたから父親の働く姿はよく見ているはずだ。僕が学校をやめても、塾を始めると自分も塾生として塾と一緒に勉強していたから…。だけど僕がスーツでいるのを見るのは初めてだったと思う。息子には一度議会に傍聴に来て欲しいと思う。そして父親が新しい仕事をしているところを見て欲しいと思う。

もう一人の息子、空はまだ1歳半。父親が何をしているかを知るのには時間がかかるだろう。でも僕が議会で発言したことは議事録に残る。いつの日かそれを読む日もくるだろう。息子たちに恥ずかしくない発言をしようと思う。学級通信や塾日記、そして議員日記のように毎日書いてきたものも大事だが、自分の言葉そのものが残るのだから…。

♪たかやんの「なんでも相談室」
毎月末の土曜日に、新堀の「たかやん塾」で定期的に開催しています。前もって相談内容を連絡していただけるとありがたいです。お問合せは090-6497-5737かメールでtakayanchan@jcom.home.ne.jpまで。